



「公開天文台へ遠征編」

6月某日、平松・高梨は朝6時50分東京発の新幹線に乗っていました。周りはサラリーマンでいっぱい、とても座れそうにありません。「サラリーマンは偉いなあ」そんな思いを抱きながら、よく晴れた東京を後にしました。目的地は島根県の三瓶自然館サヒメル。全国の公開天文台が集まる『全国の天体観測施設の会』に参加するためでした。

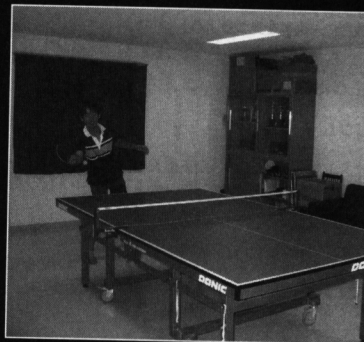
学生とプラネタリウム・科学館の間をつないで新しい天文学普及の形を探ろうとしている『天ブラ』では、もっと多くの人に『天ブラ』の存在を知ってもらうためにいろいろな会に出かけて行って話をする、ということもやっています。最近では『全国の天体観測施設の会』とプラネタリウムの集会『AJPA・JPS合同研究大会』に参加してきました。

新幹線が新大阪を過ぎた頃ようやく2人とも座れたものの、プレゼン資料を確認していると1時間ほどで岡山に到着。平松の実家方面へ行ける電車を横目に見ながら伯備線特急「やくも」に乗り換えです。そこからさらに3時間、岡山・倉敷の街を抜け、釣り好き高梨の心をくす

ぐるきれいな川を窓の外に見ながらひたすら北上。島根に入って出雲市駅からさらに乗り継ぎ、太田市駅を目指します。その1両編成の電車にはそこかしこに見覚えのある顔が。公開天文台の皆さんでした。駅からはさらにバスに揺られ、ようやく三瓶自然館サヒメルに到着です。三瓶山の豊かな自然に抱かれた、きれいな館でした。

集会では、『天ブラ』の紹介や今後の企画を発表しました。なかでも、星ナビ7月号の本コラムで紹介した“Astronomical Toilet Paper (ATP)”は予想以上に反響が大きかったので、完成の晩には複数の館にお渡しできると思います。ちなみに現在は挿絵の最終チェック段階ですので、トイレットペーパーが新しい天文広報媒体としてデビューするのはもうすぐです。ご期待ください。

高梨直紘 東大M2/天文学教育研究センター所属
平松正顕 東大M2/国立天文台ALMA推進室所属



毎日コンピュータの画面に向かい合う学生も体
会申し込み前などは徹夜する体力も必要。とい
をして体力増強に励む高梨(奥)と平松(手前)。